

2023.6.11

No1

一致してないと組織は崩れる

ナポレオンは、一頭のライオンに率いられた羊の群れは、一頭の羊に率いられたライオンの群れに勝ると言いました。戦争に限らず会社組織においても強リーダーシップがいかほど重要なか、いかに強調される名言ですが、要点は、リーダーが出した指示は、どれほど一致して動く事が大切なのか？どれほど成果に大きく影響を及ぼすか？という事ではないでしょうか。

組織が大きくなればなるほどこれは重要なポイントとなります。

時には、「これだけ大勢いるならば、自分ひとりくらい力を抜いても問題ない」と考える御墾心理が働いたり、リーダーが気に入らないから、協力

しないとか、自分勝手に指示とは違う事をやり始める人も出て来てしまうからです。それを放置すると組織は崩壊してしまいます。

目指す方向とやるべき事が示されたならば、一致して取り組まねばならないのです。

最近、園部トレーナーが各店に入り始めてから、見えていなかった部分が見え始めました。すでに古屋部長から与えられていた指示に非協力的であり、様々な理由が並べられて取り組んでいない店もあるようです。

中には、店長やマネージャーなど率先すべき人が与えられた指示に従っていないとるもあります。状況が整ったらやるつもりなのですが...という声はよく聞きますが、整うのを待っているのでしょうか？きっと一生訪れないと思ったり、その言って徹底して行、た会社がどれほど多いとか。従業員、事を真剣に考えるなら、やはり周囲の状況がどうであれ、社内で一斉に取り組む事を後回しにしない癖を今からつけておくべきでしょう。若い人たちがこの先会社を背負って行く時、時代の変化について行けなくて、あつという間に置いてきぼりにされてしまいます。

「指示に従う」と何度か書きましたが、指示待ち人間になれと言うのではありません。さらに甚だしいのは、「命令で動くのではない自由性」と、「歩調を合わせず勝手に振る舞う」のは別物だと言う事です。

前者は、同じ方向に意識が向いているので、いわば円錐の頂上に矢印が向いている状態で、経路を自分達で決めるイメージです。

後者は、円錐の下に矢印が向いているので、会社の皆が目指す方向と逆向きです。周りの人の足を引っ張る人、邪魔をする人に似ています

2023.6.11

NO.2

むしろ、責任が重い人、円錐の上の方にいる人が下向きの矢印にのって
いると奸が悪いのです。必然的に部下など周りに居る人も影響を
受けるので、一斉に足を引っ張る動きをするようになります。

この時、数字の結果だけ出していれば何も言われないうろく考える人もいるけれど
花は事はありません。また、そう考えている人は遅かれ早かれ成果も出せなくなります。
もし、自分の店は会社全体の中で浮いているなあ...と感じたり、

店の中の人同士が割れていると思うならば真剣に考えてください。

誰の言っている事が会社の打ち出している方向に合わせて動くようにしているか？
という点を見て、正しい人は誰なのかを見極めてください。

必ずしも、自分に耳障りの良い事を言ってくれる人が良い上司とは限りません。

シンプルに、このまま何年も働いた時に、自分が成長している姿を想像
できるかと考えると、答えも導き出せるのではないのでしょうか？

今、各店を巡りアドバイスを与えてくれる菌部トレーナーは文句なしの実力の方です。
店長達と比べても群を抜いた存在です。安心して指導を信じ実行してください。

そへ古屋部長の戦略が組み合わせり動き始めているので、他のダスキンが
万策尽きたと嘆いている中でも、弊社はまだまだのびしろがある状態です。

質の良いサービスと、それを多くの人に知ってもらう発信力(営業力)は車の両輪です。
バランス良く活動すれば、より多くの人に喜んでいただけます。

世の中を見ると、不誠実なサービスが本当に多く存在しており、中身を知らず
に契約している方も相当数いるのです。同じダスキンでも残念ながら接客の質が
悪く、お客様にとって損をさせている店があります。やはり私は、ほうみで働いている
人にお世話を受けた方がお客様にとって得させると思います。

だからこそ、頑張っている人たちの評判を落とさぬ事にも譲れない気持ちか
あります。合わせるのは、低いレベルではなく、高いレベルにすべきです。

さて、会長の肝入りで理念研修が定期的に始まりました。

これは冒頭で述べたように、正しい方向と正しい方針を皆で共有するための
ものです。いわゆる、円錐の先端に向けた矢印の方向を確認できる機会です。
同じ方向を向き、同じ目的地を目指す事は、同じバスに一緒に乗るのに似ています。

しかし、ビジョナリーカンパニーという本に書いてあったと思うのですが、

いかに偉大なビジョンがあっても偉大な人材が揃っていないければ意味がない。

2023.6.11

No.9

と書いてあったのは印象的でした。

まさに、能力が高くても、円錐の下向きに矢印が向いている人が居たら意味がない。組織として機能しなくなる。という意味だと感じました。その本では、打開策として厳しい表現がされており、

「バスの中を乱す人は、バスから降りてもらう」と書かれていました。一緒に働けない。という事で、考えてみれば、バスに乗っている人は運転手を信頼して、どちらに曲がらなくても、それがベストに違いないと考えてくれる人でなければなりません。気に入らない時は、横からハンドルを動かそうとするのではなく、降りるべきです。

だからその本には、最初誰をバスに乗せるのかは非常に重要だとも書かれていたと思います。仮にダスキン本社が倒産し、弊社の事業内容が大きく変わったとすると、バスの目的地が大幅変わる事になります。

それでも共に新たな地を目指していく乗り手は、偉大な人材なのだとも書かれていました。理念やビジネスが変わったとしても共に働ける仲間を得る。

という事でした。今、ほづみ号のバスの中はどのような状態でしょうか？

これまでの間、ずっと何からの問題を抱え、解決する為に手を入れてきたように思います。ひとつ解決する間に、ひとつ問題が増える感じでした。

でも問題から逃げずに向き合い続けた結果、少しずつずずが良くなっていると感じています。この努力を続けていけば、いずれバスの中は一致して

働いている皆さんに、「ここで働いてよかった」と思ってもらえる日が来ると信じています。

沼田真弥